

親子奉仕作業が地域の行事に

年間2回実施(6月 8月)
約150名の参加
草削りや剪定作業



「日本一の美しい学校にしよう！」
「自然があふれ、人が集う場所に！」



ふるさとの学校として
新たな歩みのスタート！

「愛樹会」設立

- ・学校の環境整備のための組織
- ・H23年度末に設立

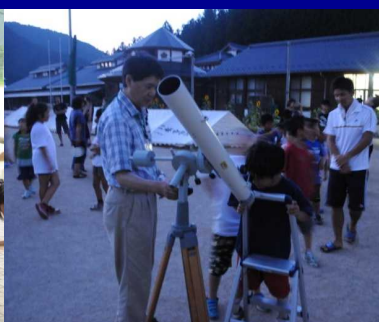


おやじたちも
がんばろう！

父二峰小おやじの会設立



ホタル観賞会 6月



ナイトキャンプ(学校で宿泊) 7月

放課後遊びの学校

子どもたちに
大人気!

- ・月1回程度
- ・6月～12月(年間6回)
- ・水曜日の放課後(15:00～16:00)
- ・コーディネーターが学校と連携し、企画・準備・運営
- ・子どもにさまざまな体験の機会を提供
- ・多くの保護者が参加

七夕集会 防災頭巾作り マイはし作り
クリスマスリース作り 巨大シャボン玉作り
レクレーション(レクレーション協会の指導員による)
ディスコンで交流 ぶちごま作り 手縫いぞうきん作り



防災頭巾作り



マイはし作り



七夕集会



ディスコンで交流

「遊びの学校」から
大きな学びの活動として展開

防災頭巾を地域の高齢者へ

手作り防災頭巾を
地域の高齢者の方に届けたい



婦人会、PTAによる制作
タオルの寄付
笛や反射テープの寄付

消防クラブの活動(3~6年)として実現
地域の独居老人宅を訪問
花鉢と避難場所を知らせるプリントも贈呈
婦人防火クラブと保護者の協力



サプライズゲストによる講演会等

- ・コーディネーターの紹介による講演・公演
- ・さまざまな体験の場の設定
(さまざまな人の生き方に触れ、心をゆさぶる)



プロの太鼓奏者とのコラボ



自転車で世界を旅し、
環境問題に取り組む方との出会い

成果と課題

平成24年度末学校評価より

〔学校〕

- 学習の深化(その道のプロの授業への参画)
 - 多様なかかわり合いの場の充実
(社会性、協調性などの道徳性を培う)
 - 表現力の育成
 - 体験により学ぶ楽しさを実感(学びへの内発的動機付け)
 - ふるさとを愛する心の育成(自信と誇り)
 - 地域に見守られているという安心感
 - 地域の方に喜んでもらえる経験
(自己有用感 自己肯定感)
-
- 教師の多忙感(意識改革)
 - 授業時数の確保、学力(見えやすい学力)向上

〔保護者〕

- さまざまな体験ができる。
 - 子どもが元気で生き生きしている。
 - PTA活動の活性化(保護者間の連携強化)
-
- 行事への参加要請が多い。
 - 学力向上への不安感(「学力は大丈夫?」)

〔地 域〕

- 「地域の子どもは地域で守り育てる」意識の高揚
 - 子どものためにという共通の意識でまとまる。
 - 学校へのボランティアという新たなコミュニティ
(学校へ顔を出す楽しみ 地域が元気に)
-
- 今後継続するための仕組み作り(組織や財源)
 - 学力向上とのバランス(保護者の不安の解消)

課題への対応

○「今、父二峰の子どもに何が 필요한のか見極める」

- ・教職員の意識改革と共通理解
- ・ねらいや育てたい力を明確にして学習に組み込む。
- ・保護者への啓発（この事業を通して育まれる学力の大切さ）

父二峰の子どもの未来を見据えた実践を

○「行事の増加による負担感・多忙感の解消」

- ・教育的価値の高い事業へリフォーム
（イベント化しない、ねらいや育てたい力の明確化）
- ・教育課程編成委員会での見直し（時数 実施学年等）
- ・PTA運営委員会での行事の見直し

○「財源の確保」

- ・教育後援会と学校支援連絡協議会組織の一体化
- ・町事業「学校と地域の連携促進事業」の活用

教育は、協働・共育・共学の時代へ

～「ギブ アンド テイク」から「ウイン ウイン」へ～

学校を拠点としたふるさとづくり ～新たな学校の役割～

学 校

『学校ににぎわいと活気が』

地域(コミュニティ)を巻き込んだ子育ての組織 PTCA
地域の力を生かした学校経営・運営

よりよい関係

一步踏み込んだ
新たな組織の構築

地 域

学校支援という新たな役割(新たなコミュニティの構築)
地域の活性化(人が動く、つながる 生きがいつくり)
地域の絆(世代をこえたつながり 人が集う場所が学校)

今後、進むべき方向は・・・

子どもを縁にした社会づくりへ

「子ども」を
地域のど真ん中におく地域づくり



父二峰小は地域とともに新たなふるさとづくりをめざしています